

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	森に親しむ野外講座 「南房総市 大房岬」		
開催日時	2022年7月20日(水) 8時 ~17時		
開催場所	千葉県南房総市多田良・大房岬	一般参加者	13名

活動概要



道の駅枇杷倶楽部（南房総市富浦町多田良）から2班に分かれ出発。穂が出始めた水田地帯を通り抜け、大房岬の付け根にあたる海岸（西の浜）で一休み。館山湾に浮かぶ綺麗な烏帽子岩を眺め浅間神社登り口へ到着。ここからは林に入るの尾根に出るまでの約1kmは涼しい行程となる。海岸に近い場所で見られるオニヤブソテツの群生やフウトウカズラ、また、暖地性のアシタバなどを観察する。あちこち見ら

れるのはエノシマキブシ。伊豆諸島の影響を受けた植物として知られている。伊豆諸島で固有進化したハチジョウキブシとキブシが交雑してできたとされている。大きな葉と果実をじっくり観察できた。また、2019年の台風15号で甚大な被害を受けたマテバシイの倒木・先端の枝の枯死を観察。そのギャップに生育している先駆種のカラスザンショウ、アカメガシワ、タラノキ、クサギ、センダンなどを観察した。



尾根に出ると森が途切れ、暑い日射にさらされるが、富浦港の青い海が眼下に見え、海からの涼風が暑さを忘れさせる。午後は、海岸までの下りと登りであるが短い距離。とは言え風が少なく蒸し暑い。この場所がほぼ北限のモクレイシを観察。雄株で蕾が見られた。福木と言われ縁起植物。この周辺には数十株が生育している。1~2月には赤い実を見ることが出来る。この後、一機に80mほどを下り海岸に降りる。海岸は照り返しが強く暑い。他のお客は見え、貸し切り状態。海の向こうには伊豆大島の島影が見える。海岸植物は生き生きして熱中症など無関係の様子。ハマゴウが群生し薄紫色の花を多数つけて



いたのを観察し、香りを楽しんだ。また、この辺が北限のハマオモトの白い花、スカシユリのオレンジ色の花を観察した。さらに岩場にはソナレムグラの白い花、砂浜では群生しているケカモノハシの穂を見ることができた。

事故もなく、また熱中症になった方も無く、ほぼ、当初予定した時間で植物や景色を観察でき十分に楽しんでいただけたと思います。



FICF | C講師

チーフ：諏訪、スタッフ：植村、金井、執行、片山